高知大学 Moodle2015 利用状況レポート

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国高知分室

高知大学は、『四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施(知プラ e)事業』に参加しており、LMS（Learning Management System）として Moodle を導入している。本レポートは、2015 年度（2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）の Moodle 利用状況を報告するものである。

１．コースの利用状況

表 1 に 2015 年度の Moodle 上で公開されたコースについて報告する。

表 1　学部等別の科目の Moodle 利用率・登録ユーザの利用率

		学部等											
	合計	人文	教育	理	医	農	地域協働	土佐さきがけプログラム	共通教育	大学院	全学開設	講習・研修	オープンコンテンツ
(A)開講科目数	6,010	513	1,150	331	287	502	17	84	628	2,477	7	11	3
(B)Moodle利用科目数（公開コース数）	33	0	0	11	0	0	0	2	10	2	1	4	3
科目のMoodle利用率 (B)/(A)%	0.5%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	1.6%	0.1%	14.3%	36.4%	100.0%
(C)公開コースに登録されたユーザ数	1,683	0	0	415	0	0	0	17	847	23	1	275	105
(D)公開コースにアクセスしたユーザ数	1,255	0	0	247	0	0	0	15	616	23	1	252	101
登録ユーザの利用率 (D)/(C)%	74.6%	0	0	59.5%	0	0	0	88.2%	72.7%	100.0%	100.0%	91.6%	96.2%

（A）開講科目数は、高知大学で開講されている全科目数である。これらの科目はシラバスに掲載された科目である。本学では Moodle を利用したいと思う教員がいつでも利用を開始できるよう公開の有無にかかわらずすべての科目を Moodle 上に登録している。（B）Moodle 利用科目数（公開コース数）は、実際に公開されたコース数である。（C）公開コースに登録されたユーザ数は、（B）に登録されたユーザ数である。この数は教職員・学生を区別していない。（D）公開コースにアクセスしたユーザ数は、Moodle にログイン後、各リソースに対してなんらかの操作を行ったことのあるユーザ数を示している。なお、「講習・研修」および「オープンコンテンツ」は、シラバス掲載外のコースである。

結果

科目の Moodle 利用率（全科目中の公開されたコースの割合）はどの学部においてもたいへん少なかった。人文、教育、医、農、地域協働の各学部では利用率はゼロであった。もっとも多い理でも 11 コース（3.3%）の開講にとどまった。「講習・研修」「オープンコンテンツ」はそもそも公開を目的に作成されたコースであるため、利用率はそれぞれ 36.4%、100%と高かった。

それに比べて、登録ユーザの利用率（公開されたコースに登録されたユーザが実際にコースにアクセスした割合）は高かったと言えるだろう。もっとも開講数が多かった理学部では約 60%の登録ユーザが利用した。土佐さきがけプログラム、共通教育、大学院では 70%～100%の利用率であった。全学開設の 1 コースは教員 1 人がユーザとなり、この教員が利用した数であったため 100%となっている。また、「講習・研修」「オープンコース」の登録ユーザの利用率は 90%を超えている。

考察

科目の Moodle 利用率（開講コース数）を上げるためには、登録ユーザの活動が活発であることから、すでに公開されているコースにおいて、Moodle がどのように使われているのかを詳細に調査し、その効果などを具体的に示すことが有効であると考えられる。

また具体的な数値は示さなかったが、「講習・研修」「オープンコース」のユーザには教職員が多い。つまり、これらの教職員は「担当している科目を Moodle に公開していないが、講習・研修などで Moodle を利用した」ユーザであると考えられる。これらのユーザに対して Moodle の使い方についてのアンケートを行ったり、聞き取り調査を行い、Moodle に対する具体的な疑問・課題を洗い出すことも必要であると考えられる。科目の Moodle 利用率（開講コース数）を上げるためのより具体的な方策につながると考えられる。

２．アクセス状況

表 2 に 2015 年度のユーザ種類別の利用率・ログイン回数・アクセス数について報告する。

表 2　ユーザ種類別の利用率・ログイン回数・アクセス数

	合計		本学学生	本学 教職員	連携大学 ユーザ
(E)ユーザ数	12,274		8,674	3,546	54
(F)ログインしたことのあるユーザ数	1,075		761	260	54
利用率 (F)/(E)%	8.8%		8.8%	7.3%	100.0%
(G)ログイン回数	前期	11,072	9,454	1,535	83
	後期	9,534	6,837	2,040	657
(H)アクセス数	前期	176,181	131,198	44,097	886
	後期	189,560	98,151	78,617	12,792
ログインあたりのアクセス数 (H)/(G)	前期		13.9	28.7	10.7
	後期		14.4	38.5	19.5

■前期（2015年4月1日～2015年9月30日）■後期（2015年10月1日～2016年3月31日）

（E）ユーザ数は、Moodle 上に登録されているユーザの数である。全学認証 ID の登録数を数えた。本学学生、本学教職員、連携大学ユーザの 3 種に分けた。連携大学ユーザ数とは、本学が知プラ e 事業として提供している共同実施科目へ登録している連携大学のユーザ数である。（F）ログインしたことのあるユーザ数は、全学認証 ID を使ってログインしたことのあるユーザの数である。（G）ログイン回数は、全学認証 ID を使ってログインする度にカウントされる数である。複数回ログインした場合は、それぞれを数えている。（H）アクセス数は、Moodle ログイン後、各リソースに対して何らかの操作を行った数である。ページを閲覧する、動画を開く、小テストを受験するなどがこれにあたる。ログイン回数、アクセス数は、前期後期それぞれの数を数えた。

結果

登録されているユーザ数に対し、実際にログインしたことのあるユーザは 10%未満であった。10 人に 1 人しか Moodle を利用していないことがわかった。連携大学ユーザの利用率が高かった（100%）のは、これら学生が本学開講の科目を受講することが目的であったからであると考えられる。

ログインあたりのアクセス数は、ログイン後にどの程度の活動（アクセス数）を行っているかの目安である。本学学生、連携大学学生が 1 回のログインにつき 10～20 回程度、なんらかの活動を行っていたのに対し、教職員は約 30 回～約 40 回の活動を行っていた。

考察

学生については、Moodle にログインしたことのあるユーザは、連携大学のユーザを除き、少なかったものの、いったんログインした後の活動は決して少なくなかった。Moodle が教材等のダウンロードに使われているのではなく、各コースにはなんらかの学習アクティビティが設定されているものと考えられる。したがって、Moodle による学習の実態を把握するためには、各コースにどのような学習アクティビティが設定されており、その利用状況がどのようになっているかを詳細に分析することが必要であると考えられる。また、成績データと併せて分析することによって、Moodle による学習の効果を検証できると考えられる。

教員については、1 回ログインあたりの活動（アクセス数）が、Moodle の教材設定によるものなのか、各回の学生の活動をモニタするものなのか、評定をするものなのかなどを分析する必要がある。教員の活動の実態がより詳細にわかれば、どのような支援を行うべきなのかがさらに把握できるだろう。

以上

（文責 竹岡篤永）